

原子力発電所の運営状況

2026年7月1日
関西電力株式会社

当社の原子力発電所における運営状況について、以下のとおりお知らせします。

1. 運転状況（2026年6月30日現在）

発電所		電気出力 (kW)	運 転 状 況	備 考
美 浜 発 電 所	3号機	82.6万	第29回 定期検査中 2026年6月16日～2026年10月中旬予定※	美浜発電所3号機 高圧タービン からの蒸気漏れに関する原因と対策 詳細は3(1)のとおり
高 浜 発 電 所	1号機	82.6万	運転中	
	2号機	82.6万	第29回 定期検査中 2026年1月23日～2026年7月中旬予定 (調整運転中)	
	3号機	87.0万	第28回 定期検査中 2026年4月7日～2026年12月上旬予定	
	4号機	87.0万	運転中	
大 飯 発 電 所	3号機	118.0万	運転中	
	4号機	118.0万	運転中	

※高圧タービンからの蒸気漏れの原因と対策について、原子力規制委員会から了承いただいた後、関係箇所と調整の上、必要により定期検査の期間を精査します。

2. 廃止措置の状況（2026年6月30日現在）

発電所名	廃止措置の状況
美浜1号機	・2次系設備の解体撤去作業中（2018.4.2～） ・原子炉周辺設備の解体撤去作業中（2022.10.24～）
美浜2号機	・2次系設備の解体撤去作業中（2018.3.12～） ・原子炉周辺設備の解体撤去作業中（2022.10.24～）
大飯1号機	・2次系設備の解体撤去作業中（2020.4.1～）
大飯2号機	・2次系設備の解体撤去作業中（2020.4.1～）

3. トラブル情報等

（1）法令に基づき国に報告する事象（安全協定の異常時報告事象にも該当する事象）

発電所名	美浜発電所3号機	発生日	2026年5月8日
件名	美浜発電所3号機 高圧タービンからの蒸気漏れに関する原因と対策		
事象概要 および 対応等	<p>美浜発電所3号機（定格熱出力一定運転中）において、中央制御室において、運転員が高圧タービン周辺より蒸気が漏れていることをタービン建屋内の監視カメラで確認したことから、原子炉を手動停止しました。</p> <p>その後、蒸気漏れ箇所特定のため、高圧タービン車室^{*1}の上部を中心に外面から目視点検した結果、2つある上部車室閉止キャップのうち、調速機側の閉止キャップ（以下、当該閉止キャップ）の母材に縦約1cm、横約8cmの損傷があることを確認しました。</p> <p>調査の結果、損傷箇所周辺の内表面に流れ加速型腐食^{*2}（以下、FAC）の特徴である鱗片状模様^{*3}を確認しました。また、点検履歴の調査により、内面に表面荒れがあることは把握していたものの、高圧タービン車室内の腐食は、クレーター状に進行するものと認識していたため、表面荒れを減肉の進行とは捉えず、クレーター状の減肉のみを管理すれば問題ないと判断していたことを確認しました。</p> <p>これらのことから、当該閉止キャップの内面において、高温高圧の蒸気によるFACが発生し、内面から外面に向けて減肉が進行したものの、当該閉止キャップの減肉の進行を適切に把握できなかったことから、損傷に至ったと推定しました。</p> <p>対策として、以下の3点を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上部車室閉止キャップ（発電機側・調速機側）について、内面にステンレス加工を施し、耐腐食性を向上させた閉止キャップに交換します。また、今後は、閉止キャップを高圧タービン車室内面とは別の管理対象とした上で、目視点検の記録を画像でも保存するなど、減肉状態を把握・判断できるようにします。 ・目視点検の着眼点などを整理したガイドラインを制定するとともに、当社の工事担当者を対象に、本事例を題材として、教育（事例研修）を実施します。 ・本事象を踏まえ、美浜発電所3号機、高浜発電所1～4号機、大飯発電所3、4号機における高温・高圧の蒸気や水が流れるすべての機器を対象に、保全が適切に実施されていることを改めて確認します。 <p>※1：蒸気発生器で発生した蒸気で回転するタービンの羽根（動翼）や固定翼（静翼）を覆うカバー ※2：FAC（Flow Accelerated Corrosion）。流れの影響により金属表面の保護皮膜が水中へ溶出することで、腐食が加速する現象。主に炭素鋼で発生する。 ※3：魚のうろこのような細かな模様。</p> <p style="text-align: right;">（2026年5月8日、12日、6月19日お知らせ済） 以上</p>		

（2）安全協定の異常時報告事象

なし

（3）保全品質情報等

なし

以上